

授業の考察②<小学校> 「怒りと上手に付き合おう」

考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、小学校6時間の授業を、以下のⅠ、Ⅱの2点を視点に考察します。

授業の考察の視点

- | |
|------------------|
| Ⅰ 本時のねらいを達成できたか |
| Ⅱ 次時につながる内容であったか |

なお、考察のために抽出した児童の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

Ⅰ 本時のねらいを達成できたかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

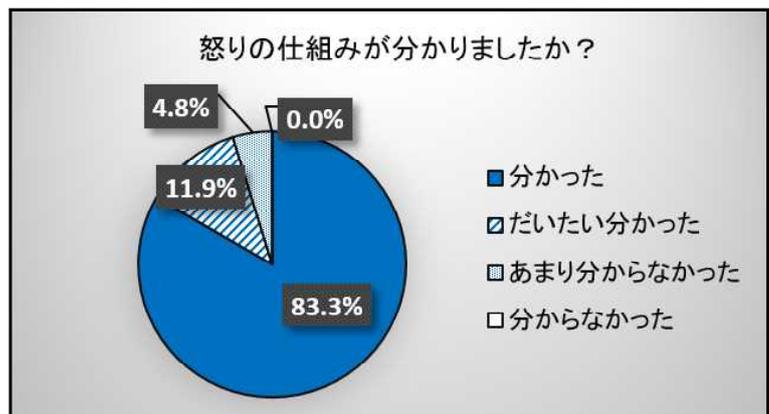
本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

- | |
|--|
| ・ 振り返りシートの質問項目「怒りの仕組みが分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること |
| ・ 振り返りシートの質問項目「怒りのコントロールの仕方が分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること |

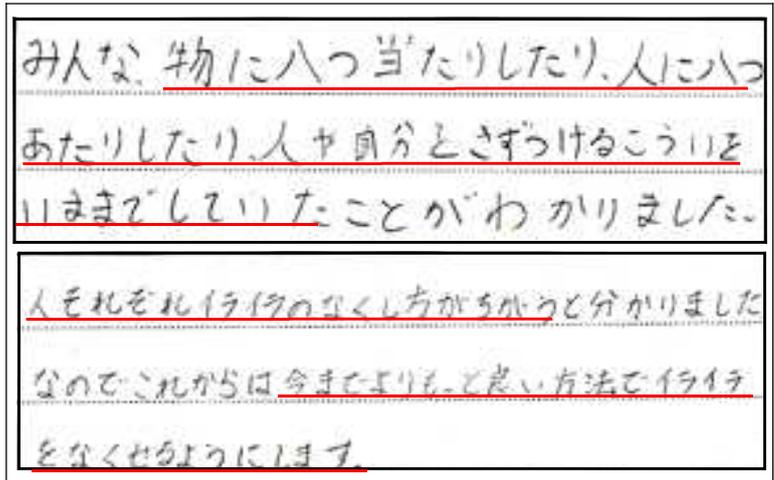
1 怒りの仕組みの理解について

○振り返りシートの「怒りの仕組みが分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した児童の合計は95.2%で、ほとんどの児童が怒りの仕組みについての理解を深めることができました。前時の怒りの温度計と本時の怒りの風船を関連付けたスライドが児童の怒りの仕組みの理解につながったと考えられます（資料1）。



資料1 怒りの仕組みの理解についてのアンケート結果（振り返りシートより）

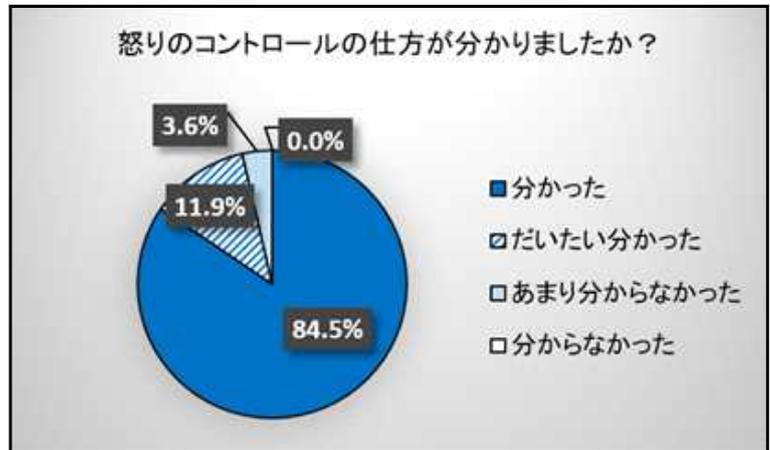
○怒りの温度に対する怒りの風船の変容をスライドで説明したことにより、児童が感情の変化を客観的に捉えることができました。怒りが爆発するまでや終息するまでの仕組みの理解が深まり、自分なりの怒りの防止法や怒りの鎮め方についても積極的に考えようとする態度が身に付きました（資料2）。



資料2 怒りの仕組みの理解についての児童の感想（振り返りシートより）

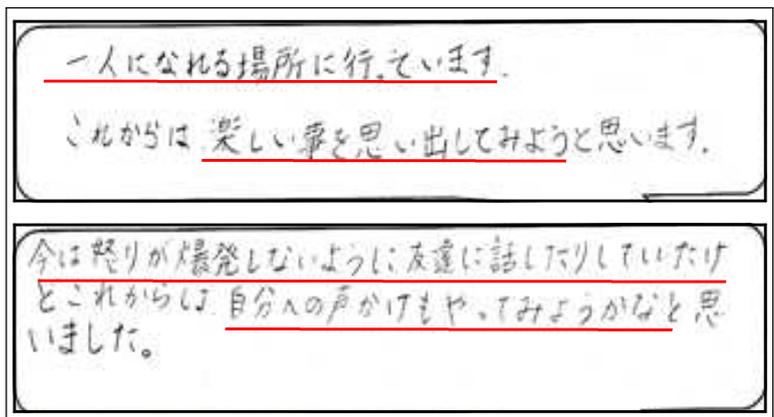
2 怒りのコントロールの仕方の理解について

○振り返りシートの「怒りのコントロールの仕方が分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した児童の合計は96.4%で、ほとんどの児童が怒りのコントロールの仕方について関心を持ちながら、その理解を深めることができました（資料3）。



資料3 怒りのコントロールの仕方の理解についてのアンケート結果（振り返りシートより）

○学習した怒りのコントロールの仕方を練習していく中で、これまで自分が実際に使っていた怒りのコントロールの仕方を振り返り、それと比較しながらより自分に合った方法を見付けることができました（資料4）。



資料4 怒りのコントロールの仕方の理解についての児童の感想（ワークシートより）

以上のことから、児童は怒りの仕組みやコントロールの仕方についての理解を深めており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

Ⅱ 次時につながる内容であったかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

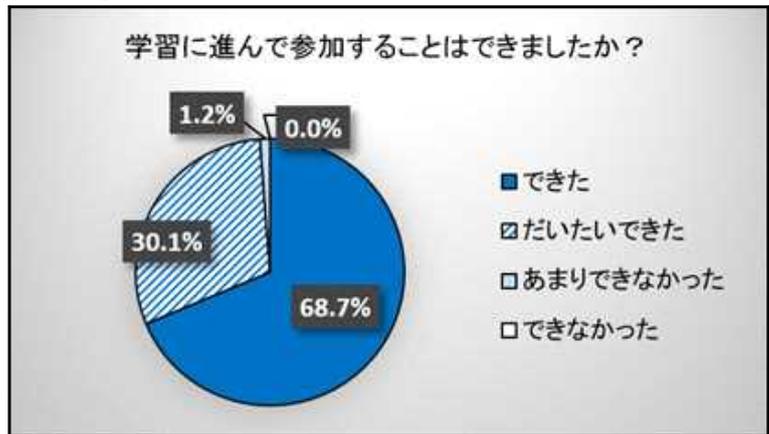
次時につながる内容であったかを、Ⅰの本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表2の「次時につながる内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表2 次時につながる内容であったかを判断する目安

・振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日学習したことをこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

1 学習に進んで参加することができたかについて

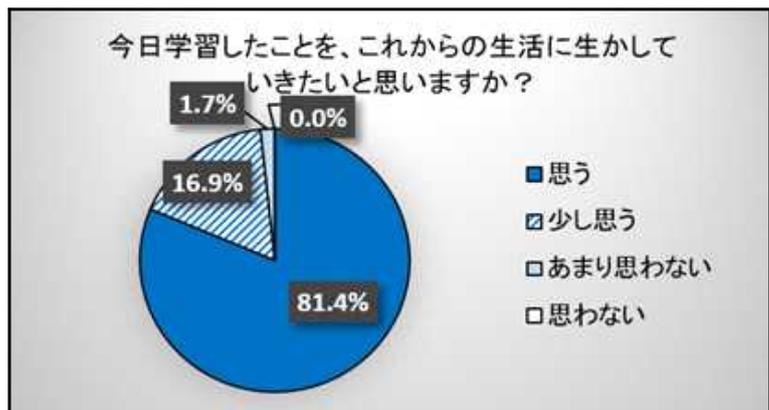
○振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した児童の合計は98.8%で、ほとんどの児童が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料5）。



資料5 学習への参加状況についてのアンケート結果 (振り返りシートより)

2 学習内容の今後の活用について

○振り返りシートの「今日学習したことをこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した児童の合計は98.3%で、ほとんどの児童が怒りの仕組みについての理解を深めた上で、自分に合った怒りのコントロールの仕方を見付けたり考えたりすることが分かりました（資料6、次頁資料7）。



資料6 学習内容の今後の活用についてのアンケート結果 (振り返りシートより)

<p>今日の学習をしていろいろ怒りのコントロール の仕方がたくさん分かりました。これから100 とになる前に今日習ったものを使ってみたいと思いま した。</p>
<p>もしも生活の中で、はくはつしたりしやう になった時は<u>教わったコントロール法で、</u> <u>落ち着いてみます。</u></p>
<p>今日の学習で、よく、みんなであつまった時にいやなことを 言われて、物々人にムッ当たりしてしまうので、<u>怒もつけない</u> <u>といけな</u>なと思いました。</p>

資料7 怒りのコントロールの仕方についての児童の感想(振り返りシートより)

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、児童が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、次時の学習につながる内容であったことが分かりました。